

◎ 関西大学 大学昇格100年記念式典・シンポジウムを挙

「学の実化」を柱に未来を拓く



2022年6月5日、関西大学は大学昇格100年の節目を迎え、同日、記念式典並びにシンポジウム「大分誕生と旧制関西大学の出発—山岡順太郎と学の実化—」を千里山キャンパスにおいて開催した。

式典では、芝井敬司理事長が大学昇格までの歴史や当時の総理事・第11代学長の山岡順太郎による新時代建設の指導理念を紹介。改めて本学の学是である「学の実化」に込められたメッセージを問い、「この度の記念事業を通じて100年前の関西大学と現代の関西大学を繋ぎ、100年後の未来に向けた新たな出発点としたい」と述べた。続いて前田裕学長は、山岡は千里山が、世界に広がる知の拠点になってほしいという思いのもと、学是「学の実化」を提唱したとし、「100年を経た今も色あせない、我々の学是としての『学の実化』に込められている思いは、現代の課題でもあり続けている」と話した。

シンポジウムでは、大阪公立大学研究推進機構特別教授で同大学観光産業戦略研究所長の橋爪紳也氏が基調講演に登壇。「大分」と呼ばれた当時の大阪市中部発展と同時に、市域周辺に郊外が誕生したことに触れ、先駆けて千里山に学舎を設けた関西大学は、新たな郊外文化を進展させた先導者であったと称した。

続くパネルディスカッションでは、本学法学部の市原靖久教授によるコーディネートのもと、橋爪氏や本学名誉教授・兵庫県立歴史博物館館長の藪田貫氏、本学文学部の官田光史准教授、本学環境都市工学部の橋寺知子准教授、元本学年史編纂室職員・学芸員の熊博毅氏らが、それぞれの視点から議論を展開。橋爪氏が指摘した郊外の開発に伴う生活様式の変容と新たな価値観について、また山岡のリーダーシップにより建設された千里山の新学舎や山岡が

提唱した「学の実化」の4本柱について、活発な意見が飛び交った。当日は来賓・大学関係者ら約500人が来場し、佳節を祝うとともに、これからの100年も大学と地域が連携し、新しい「知の丘」として魅力を発信していくべく、気持ちを新たにしたい。

またシンポジウム後には、同じく創設「100年」を迎える応援団による活気あふれた演舞演奏で花が添えられ、関西大学は新たな時代に向けた一歩を踏み出した。

■山岡順太郎先生胸像及び第2学舎前広場整備完成披露式

式典前には、山岡家親族代表の山岡洋氏ほか、芝井敬司理事長、前田裕学長、三木允子評議員会議長、田中義信校友会会長、山田泰正教育後援会会長らが出席し、「山岡順太郎先生胸像及び第2学舎前広場整備完成披露式」を挙

第2学舎前広場は植栽に工夫を凝らし、休憩スペースも設置され、装いを新たにしたい胸像を含めて一体感のある緑あふれる空間となった。

JOINT PROGRAM ■社会貢献・連携事業/地域連携

◎ 兵庫県朝来市、関西電力、Daigasエナジーと連携協定を締結

教育・文化の振興や人材育成、社会課題の解決を目指して



関西大学は、7月1日、兵庫県朝来市と地域および大学の活性化を目的とした連携協力協定を締結した。農業再生に関する共同研究をはじめ、教育・文化の振興、人材育成、健康福祉の増進等に関して連携を深めていく。本件で、本学の自治体との連携協力協定は23例目(企業・団体を含めると36例目)となります。

また、7月13日には、関西電力株式会社とカーボンニュートラル社会の実現に向けた包括連携協定を締結。本協定は、大阪・関西、日本、世界におけるカーボンニュートラル達成に向けた取り組みの推進や課題解決に寄与することを目的とし、共同研究・人材

育成などさまざまな分野で相互に連携し取り組みを強化していく。

さらに、7月27日には、Daigas エナジー株式会社とカーボンニュートラルなどの社会課題の解決に向けた包括連携協定も締結。本協定は、社会のあるべき姿を提案し、環境問題等の社会課題の解決に貢献することを目的とする。親会社である大阪ガスと本学との共同研究を推進し、カーボンニュートラル社会の実現を目指すほか、Daigas エナジーによる提案をもとに、本学の脱炭素への取り組み強化やSDGs関連講義への講師招聘など、次世代を担う人材の育成も協働する。

◎ 関西大学プレFDプログラム「大学院生のための教育実践セミナー」を開催

大学教員を目指す大学院生に向け「授業をデザインする」プログラムを実施

プレFDプログラム「大学院生のための教育実践セミナー」が、8月3日、千里山キャンパスにおいて開催された。

本学では、2021年に国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された「豊富な産学連携・地域連携と連動させた『考動力』人材育成プロジェクト」のもと、日本の科学技術の発展やイノベーション創出に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

その一環として開催された今回のプレFDは、大学教員を目指す大学院生に対する職能開発活動。大学教員には教育・研究活動をはじめ、さまざまな業務を遂行する能力が求められ、なかでも、多様な学生に対する教育実践能力を高めることが重要となってくる。

当日は、本学博士課程後期課程の大学院生17人が参加。講義とグループ討論を通して、「大学教育に求められていること」「授業をデザインすること」への考えを深めた後、グループ討論の成果発表と学びの振り返りを行った。約5時間に及ぶセミナーの最後には、山本秀樹副学長から「博士課程後期課程は専門性が高いからこそ、幅広い視野を持つことが求められる。実際に教壇に立って専門の授業をする時には、何が問題でどう考察するべきか考えてほしい」とメッセージが贈られ、参加者に修了証が授与された。



▲修了証授与 ▲グループ討論の様子